

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和7年度 第1回草津市社会教育委員会議
日 時	自 10時00分 令和7年5月30日（金） 至 12時00分
場 所	草津市役所4階 行政委員会室
出 席 者	委 員：四方委員、川中委員、井上委員、奥村委員、 茶木委員、永村委員、奥井委員、岡田委員、 香川委員、出呂町委員、山崎委員 事務局：藤田教育長、高岡部長、菊池理事、安藤総括副部長、 西田副部長（学校教育担当） 生涯学習課 山田課長、丸山係長、河合主任、平塚主事 傍 聴 人：0名
会議関係書類	☒ 有（別添のとおり） ☐ 無

1 教育長挨拶

【教育長】

本日は大変お忙しい中、令和7年度第1回の社会教育委員会議に御出席賜りまして誠にありがとうございます。

今年度の社会教育委員会議は、昨年度に引き続き、「地域における地域協働合校の今後の事業展開について」をテーマとしております。昨年度の会議では、社会教育委員の皆様からいただきました御意見から、地域での地域協働合校を展開していく上で必要な視点について整理をさせていただきました。

本日はその視点を踏まえ、いよいよ地域で実施をするに当たっての具体的な展開案等について御説明をさせていただくこととしております。

また、市内の全小中学校では、スクールE S Dを展開しておりますが、地域にも徐々に浸透してきておりまして、玉川学区ではこどもを対象とした防災体験教室を開催され、そこに参加したこどもたちがリーダーとして、後日1日防災キャンプを開催するという事もお聞きしております。

このように、地域協働合校事業におきましても、自ら考え行動できるこどもたちを育てる取り組みを生まれてきたところでございます。こういった取り組みが市内各地でも多く広がっていきますよう、どうか本日も委員の皆様にはおかれましては、活発な御議論、また御意見をいただきながら、有意義な会議にさせていただきたいと思っておりますので、本日もどうぞよろしくお願い申し上げまして、開会の御挨拶とさせていただきます。本日

もよろしく申し上げます。

【事務局】

委員 15 名中 11 名出席で半数以上出席、公開原則、傍聴なし
各委員挨拶
事務局紹介
資料確認

2 令和 6 年度の会議の振り返りとまとめ

【資料 1、資料 2－1、資料 2－2、資料 2－3】

【事務局】

(資料 1・資料 2－1～2－3 の説明)

【委員長】

ありがとうございました。ただいまの説明内容につきまして御質問御意見等ございますか。

【I 委員】

資料の中の「こども」の表記について教えてください。去年までは「こども」の表記は、漢字の「子」にひらがなの「ども」でしたが、今回全部ひらがなの「こども」となっています。これは何かあるのでしょうか。

【事務局】

御指摘のとおりです。資料 1 にも出ているように、こども基本法が施行され、国の方ではひらがなの「こども」を使うことを推奨しておられ、草津市でもこども・若者計画がスタートすることに合わせ、一般的にはこどもという言葉はひらがなを使っております。

【委員長】

昨年度の振り返りということで説明いただきましたが、特に新しく委員に就任された方はいかがでしょうか。

【A 委員】

今年度から新たに委員に就任しましたが、事前に生涯学習課から昨年度の流れについて説明を受けておりますので、ある程度理解をして臨んでおります。

【D委員】

今回初めて協議に参加させていただきまして、例えば笠縫東学区では地域協働合校として小学校高学年と地域の大人同士が交流をしながら生活体験をしていることは大切だと私自身改めて感じました。よろしくお願いいたします。

【委員長】

では御質問等はないということでよろしかったでしょうか。

続きまして、老上学区でのモデル事業について、事務局からお願いします。

3 老上学区でのモデル事業について【資料3】

【事務局】

(資料3の説明)

【委員長】

ありがとうございました。ただいまの説明内容につきまして御質問御意見等ございますか。

【C委員】

この事業で大切な役割はコーディネーターにすごくかかってくるかなと思ってはいるのですが、こどもの学びと、地域の中にコーディネーターが必要だろうというのが今までの議論の中であったと思います。今コーディネーター探しをされているところだと思うのですが、想定されているコーディネーター像や、どんな視点でコーディネーターを探されているのかお聞かせください。

【事務局】

コーディネーターの部分については【資料3】「3. 組織と運営方法」にも協力者のコーディネートや実行委員会のファシリテーションというような役割を持たせていますが、実行委員会のファシリテーションという意味合いでは、大学生の方、特に防災について取り組んでいる大学生が地域におられますのでその方と、あとその方が団体の防災について活動されていますので、その方々にファシリテーション機能を持たせたコーディネーター部分については協力を依頼しています。

実際の協力者のコーディネートを担っていただくコーディネーターにつきましては、例えばこどもがこういうことをしたいというときに、この人だったらそういう繋がりを持っているのではないかと、ということもあるかと思うので、SOS委員会や、老上学区にある防災ネットワーク会議の方が色々と積極的に活動されているのでその方々を想定しており、こども実行委員会が始まったら、協力いただきたいということを内々にお声がけして

おります。

生涯学習課もＳＯＳ委員会等の会議の方に参加させていただき、その中で今回は防災というテーマ設定の中で動かしていただいておりますが、実際他地域でも動いていくとなると防災に限らずいろいろなテーマで動いていくことになると思います。その中でやっぱりいろいろな地域資源や、地域人材が大切になると思いますので、そういうふうな方々との繋がりというのは非常に大事になってくると思います。我々も入って気づいたことは、防災という会議体には入っているけれども実際どう動いたらいいのかわからないという、埋もれた人材が地域には非常に多くおられます。ですので、そういった方々をキーにして、コーディネート機能についても今後繋げることができるのかなと考えております。

また、ＳＯＳ委員会には地域活動をされている非常にネットワークが広い方がおられまして、そういった方も実際にコーディネーターとして繋げることができるのかなと思いますし、入ってわかることがありますので、そういう方々をいかに地域まちづくりセンターと繋げるかというところを考えていきたいと思っております。

【Ｃ委員】

草津市のまちづくり協議会もいろいろと支援させてもらっています。まちづくり協議会も若手の担い手を常に見ている状態の中で、老上学区に大きな新興住宅街ができて、今2,000名ほどいらっしゃると思うのですが、まちづくり協議会としてなかなかまだ関係を作れていないという課題があって、それは僕らも一緒に悩んでいるところではあります。サポーターになっていただきたい方々へ、例えば新興住宅街へのアプローチなどについて、もし戦略としてあるようであればお聞かせいただきたいです。

【事務局】

戦略的に例えば新興住宅街をめがけてのアプローチはまだできてはいないのですが、言っていただいたように、例えばまちづくり協議会の活動にどっぷり浸かりませんかというのだとやっぱりどうしてもハードルが高いということもあり、今回は防災をきっかけにやっていくことで1日でも参加可能にしているところが参加のハードルを下げるひとつの仕掛けです。また、親子で一緒に参加可能にしているところ、1日だけでも地域のことを手伝うというところで、地域の活動を一步担うところから始めてほしいと考えています。できるところから緩やかな繋がりを作ってってもらいたいという考えで進めてはいますが、それをアプローチとしてそういうところに目掛けていけたかということ、そこはまだ課題であると考えています。

【Ｆ委員】

【資料３】「４．こども実行委員会の具体的な展開について」で、高校・大学に周知とか、こども実行委員募集のとかを発信していきたいというお話でしたが、どのような形で

発信していきたいという企画はありますか。

【事務局】

高校・大学に周知というところは、高校については老上学区にある光泉カトリック高等学校にまちづくり協議会からお声掛けいただき、大学については生涯学習課の方から立命館大学にお声がけをさせていただいているところです。

こども実行委員会とサポーターの募集については、机上にチラシを配布させていただいておりますが、こちらをまず小中学生保護者向けのアプリでの配信はもちろんですが、その配信だけでは埋もれてしまいがちなので、老上小学校と老上中学校には児童生徒1人1枚ずつ、紙媒体で配布をしております。その他老上学区にお住まいの方にはまちづくり協議会からの配布物と一緒に全戸配布をしていただきます。あとは、まちづくり協議会のホームページや公式LINEでも発信していただきます。しかし、やっぱりどうしてもSNS媒体は届く層には届きやすいのですが、こどもに自主的に参加してほしいと思うと、学校からこんなチラシをもらった、行ってみたいな、と保護者の方に伝えることで一緒に来てもらうといったことを期待して、様々な方法で周知をかけているところです。

【F委員】

私の学区でもこの前地域協働合校の推進協議会がありまして、そこでもうちちょっといろいろな角度でスクールESDや地域協働合校をやっていないといけないなという話をしまして、学校運営協議会の会長、まちづくり協議会の方、PTAの会長が集まってこれからどうしていくっていうお話もさせていただきました。私達がこういうことが大事やねと話していたことが【資料3】に載っていたので、なかなかいい感じだと思います。もっとこどもの意見をしっかりともらおうっていう話をさせていただいて、未来を担うこどもや保護者の若い世代の人たちにどういうふうなものを残していくか、それをやっていくっていうのが大事だねという話をしました。

私の学区でも防災をテーマにしてはどうかという話が出ましたので、これいい感じと思いながら見させてもらって、これもこの前の地域協働合校の推進協議会で話したなというところがありましたし、また、学区のまちづくり計画書が来年度に改定され、その中に地域協働合校も記載されていますので、それに向けてこの1年間はじっくりこういうことを少しずつ考えていきながらいいものを作っていきたいなということで、まちづくり協議会とも小学校とも一致したっていう形ですので、こんなモデルを教えていただけてよかったなと思っています。

【副委員長】

防災というテーマは先ほどもありましたとおり、すべての人に関わってくるため、多世代でともに考え活動をすることになり、非常に良いものだと思って伺っていました。同時

に考えなければいけないことは、防災は確かにみんなに関係しているのですが、できればみんな考えたくない部分だと思うのです。考えた方がいいとは分かっているけれど、例えば防災訓練に大挙していくかといえばそうではなくて、おなじみのメンバーが参加する傾向にあります。また、防災は真面目で固くて面白みはなく、加えてそういう場に行くと「あなたはこういった災害対策取られていましたか」「取ってないです」「これをやらないといけないですよ」といったようにある意味で「説教」される雰囲気になりやすいものです。そうすると、人はそういう場には出向かなくなりがちになります。そこでこども・若者に新しい企画を出すことが期待されることになるのですが、こども・若者も防災について学ぶと大人が考えている真面目で固い防災を取り込んでいって、似た方向での企画になってしまうことがあります。ですから、こどもや若者、地域の人たちも防災への向き合い方・考え方をどれだけ緩める形で、想像力を発揮しやすいような形でこの会議や取り組みをスタートさせるのが大事でしょう。実際に草津市でも過去には「イザ！カエルキャラバン！」という防災プログラムを実践された実績もありますので、そうした取り組みも学びながら「こんな防災もあるんだな」と思考に広がりをもたせて、楽しく面白く、だから参加しちゃうという企画が生まれるような、方向づけが大事になってくると思います。

あと、ファシリテーションについて意見交換されていました。すでに市の方は確認されているかと思いますが、こども家庭庁はこども意見ファシリテーター講座を毎年開いております。対面では福井県で、オンラインでは昨年の流れで言えば7月頃に開催されるのではないかと思いますので、関係者で興味のある方は参加を促してみてもいいかでしょうか。講座への参加はハードルが高い方はこども・若者の意見の政策反映に向けたガイドラインが公表されています。行政職員向けですが、その中身はいろいろなところに応用できるものですので、併せて参考にさせていただけると良いのではないかと思います。

【事務局】

防災は固くなりがちということを御提言いただきました。今回のこども実行委員会のブースと直接結びついているものではありませんが、劇団員の募集も同時にしております。劇の最中にあなただったらこのときどうするという問題提起をし、観客に考えてもらったり、ユーモアを交えたような形で考えていただいているのですが、少し広がりがあったり楽しい、面白い、これだったら行ってみたいなど思えるような仕掛け作りというところは、こども実行委員会の中でも企画に反映させていけたらというふうに思っております。

あとはチラシにも書いてありますが、小学校の方は自由研究の題材にしているよということは小学校の校長先生にも許可をいただいております。これに來たら自由研究になるというメリットというか、お土産として持って帰ってもらえるようなことも考えてはいるのですが、今いただいた御提言もこれからの実行委員会の中で反映していきながらより実のあるものにしていけたらというふうに考えております。

【副委員長】

ゲーミフィケーションも含め、いろんな組み合わせで考えてみると、新しいものが生み出されて、他の地域でも参考になるなということが出てくると思います。

【委員長】

こどもブースの実行委員でありながら、さらに劇にも出るっていう子が出てくるということもあり得るってことですね。

【事務局】

十分あります。同時応募大歓迎ということで募集はしています。

【E 委員】

最初の教育長からの御挨拶で、今年度、玉川学区では防災体験教室や防災ジュニアリーダーを実施するという話が出ていましたが、実は元々玉川学区ではまちづくり協議会の中の文化教育部会で子ども体験合校という事業がありまして、10年以上、隣にある南消防署を利用しながら、小学生3年生から6年生のこどもたちが年に1回消防署とか、市の危機管理課の方に来ていただいて防災について学びます。特に消防署は消火器訓練とか、グラドン号（起震車）に乗ってみたりとか、救命するときの担架作りとかいろいろなことを教えていただきました。防災体験教室に来たこどもたちには防災ジュニアリーダーの資格をもらうということで、それをどこに反映していくかということ、各町内の防災訓練があったときにこどもたちも優先して出て行ってくれたらいいなという思いで、防災ジュニアリーダーという称号を与えていたのですが、実際なかなか各町内会でも理解ができていなかったというところはすごく残念に思っております。実際のところ、子ども体験合校にしても、大人がやっぱりお膳立てをしております。私も7月5日の子ども体験合校の防災体験教室に行きますが、どうしても大人が作ってしまってその中にこどもたちが入ってきて、そこで必ず学びがあると思うのですがなかなか自分たちで思いを伝えていくというのは難しいなと思うので、今回のこの老上学校の取り組みはすごく興味があります。

【事務局】

すごく先進的取り組みであるなど防災体験教室のチラシを見させていただいていましたが、大人がおぜん立てしてしまっているという部分は、実際に今回のモデル事業でこども実行委員会として進めていく中でも、これからの展開を考えていく上では大事にしないでいけない視点だなと感じさせていただきました。説明のときも申しましたが、1回目と2回目の実行委員会には極力大人が入らないということも考えてはおりますが、進め方の中で入らないだけでなく、水面下で動くことにならないようにというのは気を付けたいと思います。綺麗に収まらなかったとしても、こどもが出す意見というのを尊重しながら

進めていきたいというふうに思わせていただきました。

【委員長】

C委員からコーディネーターに関わる質問があったと思いますが、やっぱり今回の事業のベースになるのは、1回目と2回目のこども実行委員会はコーディネーターとこどもたちでやるということだと思います。そうすると、やっぱりコーディネーターがかなり重要、責任重大ではないかと。従来通りコーディネーターが動きすぎてしまうと、敷かれたレールに乗っちゃうみたいなことになるので、コーディネーターがかなりキーかなと思います。なおかつ劇も別途やることは決まっているとすると、そうするとこどもたちだけで一体どういう企画を考えてくるのか楽しみだと思います。

【E委員】

玉川学区の防災体験教室は、今回は時間が9時20分から14時ということで、いつも午前中でやっていたものが少し長めになっています。午前中に南消防署で体験を行うのですが、今回は防災バッククッキングなどを入れながら実施します。危機管理課の方の防災講座というのも以前はやっておりましたが、時間的に厳しかったので午前中で終わらそうと思うと南消防署での体験のみになってしまっていました。でもそれだけではこどもたちも自分でやってみようとか、考えてみようということができないので、今回はバッククッキングと、ミニ講座も入れて、お昼を挟んで14時までという形になっています。

これであればこどもたちも積極的に関われるということで大人が決めてしまっていることですが、今後は中学生とかのこどもたちにお手伝いしてもらいたいなといつも思っています。なかなか中学校とも連携できないし、立命館大学のBBS会の方にも入っていただいておりますので、大学生にも手伝っていただいています。やはりこどもたちは自分たちで考えるというのがまだできていないので、今後の事業の展開に持っていきたいと思っています。

【委員長】

こういうのをきっかけに、今後こどもたち自身が動いてくれれば。知らない状態で主体的に、というのは無理なので、そういう意味では一通り知るきっかけになって将来的に長い目で見てもいいのかなと思います。短時間で盛りだくさんな内容で、すごくいい企画ではないかと個人的には思います。

【B委員】

今、E委員から中学校との連携ということをおっしゃっていただきましたが、本校でもスクールESDの一環で、どの学年でも防災に関わっています。やはりこどもの興味が高くて、こどもたちがそういう内容の活動をしたい、自分たちで考えたいという思いからス

クールE S Dで推進しております。きっかけをやはり地域で作っていただいているんだなというところが今ひしひしと感じるところで、小学校時代には大人に教えてもらったけれども、中学生になってみてもう1回グラドン号に乗ってみたいとか、かまどベンチで火をおこしていざというときに役立てたいとか、発想のもとになるのはやはり幼少期に地域で培っていただいたものだということを、中学校ではその経験を生かしていかないといけないなということを改めて思っています。ですので、やはり最初は大人に教えてもらうことがどうしても欠かせないと思いますが、中学生になって新たに思いを表現していくというところで、本当は中学校という域を超えてもう一度地域に戻ってこどもたちが活躍したり、さらには自分たちが今度は小学生に自分の体験を語る場面があるといいなと思うのですが。

中学生になると部活動がどうしてもこどもたちには新たな取り組みとして増えるので、例えばこの防災体験教室も7月5日というのを早くからお知らせいただけると、学校の中でもこどもたちの目につくようにチラシを貼ったりするところなんですけど、7月19日、20日は夏の大会で、期末テストを終えて、生徒にとって最後のまとめの大会に向かっていよいよ本格的に活動するという時期でして、こどもたちの忙しさの一つになってしまっています。あっちの方はしたいけどこっちもやっぱり願いを叶えたいというところで、学校の運営としては困っているところの一つです。御理解いただけるとありがたいです。

【I 委員】

ちょっと視点を変えて、大人がなかなか地域に入っていけないという課題があったと思いますが、以前、市の危機管理課に連れて行ってもらって老上学区の防災の備蓄倉庫を見学させていただきました。自分の地域の防災倉庫はどこにあるんだろうと思う人がたくさんいると思うんですね。地域防災にスポットを当てると、いろんな資源があると思います。避難所になるような、まさに体育館であったり、老上学区であれば先ほど新興住宅街の話も出ていましたが、そういうところの人にとっては防災という視点が大変わかりやすいし、一緒に学んでみませんかというアプローチをすると、地域の人がそこで知り合いになったり、こどもたちはこんなことをしているのかと、大人がこの事業をきっかけに大人が地域や学校に向かう視点ができるといいなと思うのです。

例えば生涯学習や社会教育の中でよく使うツールで、防災キャンプであったり、ゲームだったりいろいろあると思うんですけど、固くなりがちだけど大人が関われるようなものや見てみようかなと思わせることで、地域に目が向くこともあるのかなと思いました。

【E 委員】

玉川学区では防災防犯部会というのがありまして、年に1回、備蓄倉庫の見学やトイレの作り方などを学ぶ日があります。ところが集まっていた人が毎回同じ人で、もちろんホームページも、チラシも、町内会にも回覧で回していると思いますが、なかなか

か認知していただけない。曜日などにもよるかもしれませんが、こういう場に来ていただくと、学校のここにこんな備蓄のものもあるとか、こんなとき体育館でこうできるとか、学べる機会がありますが、結局どうしたら皆さんに来ていただけるか、そこが毎回悩みの種です。本当に防災防犯部会の方々は頑張っておられますが、メンバーはいつも同じ人ですので、地域の方にどのようにして周知していただくのか、そこも一つの課題だと思います。防災は絶対大事なことで、大人がそれに気が付かないとこどもにちゃんと伝えていくことは難しいと思いますので、その周知の仕方がやっぱり頭を悩ませるところだと思っています。

【A委員】

たくさんの意見を聞いて、人が集まらないというのは、学校のPTA活動も含めて全てですが、同じ方ばかりとか、役に就かれている方しか来ないとか、それ以外の方は少ししか来られないとか、まちづくりだけでなく、地域や学校であればどこでも同じ課題だと思います。

老上学区の地域版ESDを見せていただいて、書いてある通りになると本当に素敵になると思っていて、こどもたちを中心に運営するとか、大人はいい意味で口出ししすぎないとかがすごく大事になってくるんですけど、こどもが申し込んでくれるとか、それをサポートする高校生、たとえば光泉カトリック高校とか大学生、立命館大学生とかの学生がのってきてくれるかという辺りとか、それを形にしようと思うとやきもきする方が多分いらっしゃるんじゃないかなと感じます。ぜひたくさんの人が申し込みしてほしいと思うんですが、中学生は先ほど部活の話がありましたが、小学生は小学生で予定が決まっている子が多いので、「あー土曜日か、無理や」と思う子がきっとたくさんいるのが現実だと思うんですね。8月30日が充実した日になるといいなと思いながら、一般論を申しますと、やっぱり小学生は小学生でいろいろ忙しく、大人は大人で見つけるのが大変だ、ということになってきています。やろうとすることは本当に素敵なことで目指すべきところかなと思いながら、いろんなところでお困りのこととかがたくさんあるなど。結局紙や電子で周知しても、申し込んでくださる方はそんなに多くはないような気がするんですね。そうなってくると、近くの大人からの口コミやお誘いが一番結局効くんだろうなど。そうやって来ることになったこどもたちが「来てよかったな」と思ってもらえないと、絶対に繋がってこない。来たこどもたちが「来てよかった」という気持ちになってもらうためには、御褒美がいるんですね。これは物としての御褒美と心としての御褒美があるのですが、その御褒美で、大人から「本当に良かったよ」とか、「頑張ったなあ」という言葉があると、「来年も頑張ってみようかな」とか、「こどもの提案することを、大人が聞いてくれるんだ」という実感を持ってもらえenと思います。1回目と2回目はこどもとコーディネーターが実行委員会をやっていくということですが、こどもとコーディネーターが見つかって、3回目以降の実行委員会にサポーターとして多様な世代が入ってきたときに、「お金

とか時間ないし無理やで」と言いたい気持ちを持たれる方もいるかもしれません。しかし、すぐに時間や人数の関係で否定するとこどもはやる気をなくして、次からの意欲に繋がらないので、お金や時間が足りないことを上手に言ってあげて、こどもが自主的に「そうだな、考え直そうかな」と思える進め方をしていただけると、参加した子がまた次の子を連れてきてくれるかもしれないと思います。なかなか紙のチラシを配布したりとか、電子で案内を出しても人が集まらないというのは今に始まったことではないと思いますが、なんとかこの素敵なモデル事業が形になるといいなと思って聞かせていただきました。

【委員長】

重要だと思います。大事なことは、コーディネーターは文字通りコーディネーターに、サポーターは文字通りサポーターに徹するということではないかと。このネーミングにはやっぱり意味があって、サポーターはサポーター以上になると駄目だって話だと思いましたし、コーディネーターはコーディネーターで主催者ではないと。このネーミング通り動いてくれるかっていうところが重要なということと、あと昨年度来からいつもの人じゃない人にどう来てもらうかというところは去年からずっと言っていたような気がします。今回も多分そこがおそらくは課題になるんだろうなと思いますが、実際蓋を開けてみないとわからないところもありますし、上手く集まればいいんですけども、今回だけの課題ではないのだろうなと思います。

【C委員】

地域における地域協働合校の推進の最終的な肝の部分っていうのは、結局これを進めることが地域の持っている課題の解決にも繋がっていくということを地域の皆さんが実感されることだと思うんですね。今、こども若者や防災がキーワードになっているところだし、関心度が高いと思うんですね。

先ほど玉川学区や南笠東学区でも参考にしたいとおっしゃったように、他学区への横展開が大切だと思っていて、ぜひ情報発信の部分で他学区まちづくり協議会や役員にも、こういった手法も一つとしてあるんだなというのがわかるような情報発信を、僕も頑張ってみようと思っていますが、ぜひ教育委員会からも、老上まちづくり協議会からも、他学区への情報発信を意識してやっていただけると。これはモデル事業なのでうまくいくかどうか分かりませんが、こういったやり方があるんだな、という情報共有は大切だと思うのでお願いしたいなと思っています。

【G委員】

やっぱりこどもも大人も人が集まるかっていうのは、どうしても問題になると思いますが、こども実行委員会の対象が小学4年生から中学生。小学生も中学生も年齢を問わず交流があればということだと思うのですが、やっぱり小学生は中学生がいたら入りづらいん

じゃないか、中学生は小学生中心のフェスだとやっぱり入りづらいとかそういうがあるので、一緒にすると人が集まりづらいんじゃないかなと思ったりもします。あと、大人も人が集まりづらいという話があったと思いますが、大学生はこどもに興味があるとしても、急にサポーターはどうですかっていうチラシがきて、他に大学生がいるのかなとか、自分だけ大学生だったらどうしようという気持ちがあってなかなか入りづらいかなと思うので、大学の中に児童支援のボランティアがあったりするので、そういう活動をしている団体にたくさん声をかけて、仲間でどうですかと募集していくと人が集まりやすいんじゃないかなと思います。

話は変わるのですが、自分も玉川学区の防災体験教室に去年参加させてもらいました。が、こどもたちに大人が防災のことにしてお話するよりも、消防車を見てその消防隊員の方が担架の使い方を教えてくれて、実際に物干し竿やシートで作ってこどもを持ち上げてということをしていて、やっぱり座学で勉強するよりもそういう体験が、何かあったときにあのかた消防隊員の方が教えてくれたとか、応急処置どうやってやるんだっけとか緊急時に思い出せると思うので、消防隊の方から学んだり、何かゲーム感覚でやっていけると記憶に残る学習になると思うので、非常にいいんじゃないかなと思います。

【H委員】

渋川学区でも昔は毎年のように防災の宿泊体験をさせていただいておりました。そのときは今の家庭環境とは違って、お父さんお母さんも宿泊を一緒にしてくれるという時代だったんです。備蓄倉庫がどこにあるかということで、夏に地図を持ってグループにわかれて、ここはちょっと危険箇所だなとか、プロパンガスが固まって備蓄してあって困るんだよねとか、こどもと一緒に連れ立って歩いて、学区内に流れている伊佐々川で生き物観察をしたり地域の環境も見ながら活動をやってきましたが、A委員がおっしゃった通り、やっぱり15年や20年経つと社会情勢も変わるので保護者の方もこどもも中学生も高校生もいろいろあってすごく忙しいというのは私も実感しています。他の方もおっしゃる通り、いつどんな事業しても来てくれはる人はみんな顔ぶれ一緒。だから一体なんの事業だったかなと思ったりしますが、ただその中で、たとえ少人数でも参加してもらってよかったなと思って帰ってもらったらいかなと私はいつも思って、今いろんな活動をさせてもらってます。ただ、自分も次にやりたいなと思ってもらって、全員すごく充実して帰ってもらうというのが今の時代かなり難しいと私は思っております。

あと、防災から離れますが、先日草津中学校の学校運営協議会に参加した時に、【資料2-1】の【B-3】の課題である、まちづくり協議会や学校運営協議会が絡んでの地域との関係作りで、事例があがりました。中学2年生が職場体験に大路まちづくりセンターに行ったときに、まちづくりセンターでの職場体験って職員のお手伝いが多く、こどもも主体でやらしてもらえことは少ないんですが、こどもの方がSNSとかの発信は上手なので、チラシを作れるかって言ったらチラシを作ってくれはったと。そこから派生して地域

の人にスマホの使い方を教えるということで、孫やこどもに何回も聞いたら、これわからへんと言われるから聞けなくなる。でもまちづくりセンターのスマホ教室に行ったら、中学生に親切に教えてもらえるので、すごく好評だということをお聞きしていて、それが受け継がれていっているということをお聞きしています。中学校の授業の一環での職場体験でも、そこから派生しているのは素晴らしいなと思いますので、地域全体で大人もこどももともに育っていこうとか、地域の繋がりを作っていこうというのもすごく大事けども、小学校中学校の学びの中から地域への派生というのも大事だなとすごく感じました。

【委員長】

おふたりの話を聞いていて思ったのは、今回フォーカスをあてるのはこどもブースですが、大人ブースが何をやっているかということも重要なんじゃないかと思ひまして、あと大人ブースとこどもブースの関わり合い・連携みたいなこともあっても面白いのかなと思ひましたね。だからこどもブースをこどもたちがやる中で、大人ブースの方でも何か面白いものがあったりするとまた、この日の体験の意味がすごく深くなる。もちろん我々はこどもブースを専門に見させてもらうけれども、やっぱり大人ブースの方も何かポイントな気が私はしました。

【I 委員】

老上学区だったら新興住宅街にスーパーがありますし、そこに大きなポスターでも貼り出して、防災フェスに向けて今こども実行委員会でこんなことをやっているよという経過をお知らせしたり、また、スーパーには老上学区の人ばかりが行くわけではないので、他学区との連携という意味でも8月30日に向けての経過を見せていくとワクワクして、老上小学校の体育館にいてみようなと思う人も増えるのではないかと思います。

【事務局】

今日聞いたお話が全て刺激的で、興味深く聞かせていただいています。中でもB委員が中学校でESDをするにあたって、防災のテーマにこどもたちがすごく関心ある。でもそれはきっと玉川学区の防災体験教室等の経験が根底にあって出てくるんだろうな、昔知ったことがいつか行動化に繋がっていくような、育ちを長い目で見るというのも大事ですよと話を非常に興味深く聞かせていただきました。

私は相手のことを知るとか、対象を知ることが行動のきっかけになるので、知るといふ活動が非常に大事だなと思います。例えば、この防災のイベントするにあたって、そもそもこどもたちはどういう防災の学びをここまで積み重ねているのか。昔は小学校4年生で消防を習っていたんですけども今は3年生で習います。4年生、5年生では防災習うようになっているんですね。そして例えば、私達にとって東日本大震災はつい最近の出来事のように感じるけれども、こどもたちにとっては14年ぐらい前の話になるか

ら、自分が生まれる前の昔の話になってしまっていて、授業でも東日本大震災を出すよりも能登の地震の方が子どもたちにとってわかりやすいだろうということもあります。

だから、対象やこどものことを知るということが非常に大事だなというふうにまず思うんですが、それにあたって授業作りとか社会科とかE S Dを考えたときに、いったんまず出合いがあって、そこから刺激を受けて学ぶんだけどそこからさらに新たなものを作り出したとか、考えたっていうような2サイクル目に入るとか、あるいは1サイクル目であっても、出合いがあって刺激があったから思いが生まれる、課題が生まれるっていうことが出てくると思うんですね。

そうすると今回のこども実行委員会での意見出しにおいて、そもそもどんな学びを積み重ねてきた子どもたちがいるのか、そして動き出すためにはどういう情報が入ってたらいいのかとかいうことも踏まえないと、何もなくて集まってきた子どもたちに意見出してねと言っても、なかなかどういう意見が出てくるか読めない。コーディネーターが大事だという話は結局そこに行き着くんだと思うんですけども、集まる前に大人たちがまずどういうことを認識していないといけないのか、仕掛けないといけないのかということもこの6月から8月という短いスパンの中で積み上げていくには大事なことになるなと思って聞かせていただきました。

【委員長】

では昨年度から課題として出していただいていることを取りまとめていただき、そうした視点から今回老上学区のこの事業を見ていくということで実施していきます。昨年来言われてきた課題をいうのを今回も再び聞くことにもなりましたが、それこそコーディネーターやどうやって特定の参加者以外を気軽に参加できるようにするかとか、あるいは情報の発信をどうしていくかといったことを、今回のこの事業ではそういった視点から見させてもらうということになるのかなと思って聞いておりました

今年度は老上学区のこの事業を見ていくというところを柱に進めさせていただくということで議事の2、これにて終了させていただきます。

閉会

【事務局】

閉会挨拶